

第4回島根県保健医療計画学習会の概要

文責 益田の医療を守る市民の会 中川昭生

3月28日に「救急医療その1」をテーマに第4回学習会を開催しました。今回は、益田広域消防本部警防課救急係の岩本洋係長と益田市医療対策室の岩本真紀子主任主事に報告していただきました。

1. 救急医療の概要説明（益田の医療を守る市民の会：添付資料1参照）

- ・ 島根県医療計画には、救急医療を初期（一次）、二次、三次救急医療の連携、搬送体制の充実、病院前救護体制（メディカルコントロールや電話相談など）の充実を記載。
- ・ 救急医療の体制は、平日の昼間と夜間、休日の昼間と夜間の4区分で考える。特に、初期救急は平日の昼間は診療所（開業医）が開いているが、夜間や休日は対応が地域によって違っている。
- ・ 益田では、初期救急の夜間対応がないので、電話相談か二次救急に依存している。そのため、二次救急の負担が増している。

2. 救急搬送について（益田広域消防本部：添付資料2参照）

- ・ 益田広域消防本部のエリアは益田圏域に加えて浜田市三隈町や萩市田万川町までおよんでおり、神奈川県に匹敵。益田署と美都、匹見、津和野、日原、柿木、六日市の6分遣所で対応。
- ・ 令和6年の出場件数は4,194件、1日当たり11.4件で過去最高。一日当たり出場件数は11.4件（2時間に1件）、単純に人口割すると14人に一人が搬送されている計算。
- ・ 出場件数、搬送人員ともに増加。内訳は急病が最も多く、呼吸器系疾患、脳疾患、心疾患、消化器系疾患が上位を占める。
- ・ 年齢別には高齢者が多い。傷病程度では軽症と中等症が多い。
- ・ 医療機関別では、救急告示病院である益田赤十字病院が2,814件と最も多いが、医師会病院、津和野共存病院、よしか病院（旧六日市病院）も対応。
- ・ 時間帯では7時～9時が最も多い。
- ・ ヘリコプターによる搬送：広島が一番目。広島は医師が常駐し要請からおおよそ10分、山口が15分、島根は30分程度かかるため。
- ・ メディカルコントロール：一般救急隊員はAEDなどの応急処置を行う。救急救命士は医師の指示を受けて特定行為（気道や静脈路の確保、薬剤投与など）を行う。
- ・ 人口は減っているのに搬送数が増えている理由は高齢者が増えているため。救急搬送は呼ばれたら助けに行く。人生会議*が大切。

<フロアの医師からの追加報告>

- ・ 搬送体制も大変、受け入れも大変。日曜日はすぐに救急対応の4台のベッドが埋まり、本当に必要な人に対応できないこともある。
- ・ 高齢者の場合、看取りで済む人もあると感じるが、状態が悪くなりとりあえず救急搬送を要請している状況がある。

- ・ アドバンス・ケア・プランニング（ACP/人生会議）*を知っているのは 20 人に 1 人程度。
- ・ 本当に助けないといけない人が呼吸停止や心停止で運ばれるが手遅れ。現場で人工呼吸や AED など何か対応してくれていたらと感ずることがある。
- ・ 救急車有料化は反対。まじめな人ほど救急車に迷惑をかけたくないと思っている

*ACP：将来の医療やケアについて本人、家族、医療チーム等が話し合い、本人の意思決定を支援する取り組み。最後まで尊厳を尊重した医療提供を目指す。

3. 一次救急医療体制（益田市健康増進課医療対策室：添付資料 3 参照）

- ・ 益田市では第二次救急医療体制を維持するため、平成 21 年度から病院前救護体制として「ますだ健康ダイヤル 24」と、一次救急医療体制として「休日応急診療事業」の 2 つの事業を行っている。
- ・ ますだ健康ダイヤル（TEL：0120-506-103）は健康や育児の相談、メンタルヘルスなどの相談を医師・看護師・助産師などに 24 時間年中無休、無料で電話相談ができる。また、スマートフォンやパソコンではチャットボットも利用できる。
- ・ 令和 5 年度ますだ健康ダイヤルの相談件数は累計で 2,825 件、1 日平均 7.7 件の相談があった。乳幼児に関する相談が 15%、60 歳以上の高齢者に関する相談が 46% で多くなっており、高齢者に関する相談が増えてきている。
- ・ また、島根県子ども医療電話相談（#8000）は休日・夜間の急な子どもの病気にどう対処したらよいかなどについて相談ができる。
- ・ #8000 の令和 5 年度相談件数は益田圏域（益田市、津和野町、吉賀町）で 324 件。ますだ健康ダイヤルの 0 歳から 12 歳に関する相談件数が 570 件で合計 894 件。島根県内の他圏域に比べ、益田市の電話相談利用率は高くなっている。
- ・ 休日応急診療事業は病院救急外来における軽症患者受診者数を減らす目的として、軽症患者に対して応急的な診療を行っている。日曜・祝日、年末年始の 9:00 から 13:00 まで、益田市立休日応急診療所（益田駅前ビル EAGA 保健センター）、または各医師会会員の診療所（在宅診療）で益田市医師会、益田市薬剤師会の協力を得て実施。
- ・ 令和 5 年度の休日応急診療の患者数は 1,850 名、一回あたりの平均受診者数は 26.1 名であった。コロナ禍では受診控え等により患者数が減ったが、コロナ禍を経て年々患者数は増加傾向にある。
- ・ 救急医療体制を維持するための課題として、第 2 次救急外来はひっ迫しており、夜間・休日の「コンビニ受診」がみられることがあげられる。また休日応急診療事業においては医師の高齢化により閉院が続いてきており、今後医師の確保が厳しくなると見られる。
- ・ 今後の対策として、健康ダイヤルの更なる利用促進を促し、適切な医療機関の受診啓発を行っていく。また、次世代の医療従事者の人材育成として「育む事業」の取り組みを継続していく。保健所、医療機関等の協力を得ながら 1 次・2 次救急体制充実に向け検討していく。